



北海道ブロック長
札幌市立中の島小学校 教頭
深澤 一寛

北海道公立学校教頭会は、隣接する地域でまとめた6つのブロックで組織され、今年度の会員数は1477名です。本会は昭和41年の創立以来、北海道における教育の充実・発展に向け、豊かな人間性を育む学校教育の創造と、副校長・教頭の在り方を追究し、常に研鑽に努めています。

【活動方針】

- 北海道公立学校教頭会は、副校長・教頭の立場から学校管理運営についての研修を推進し、職能の向上と学校教育の振興に寄与するとともに、会員相互の福祉増進を図ることを目的としています。その目的を達成するために次の活動を推進しています。
- (1) 学校管理運営及び教育上の諸問題についての研究・調査に関すること。
- (2) 研究大会、研修会等の開催に関すること。
- (3) 研究・調査資料等の刊行に関すること。
- (4) 教頭の地位向上と会員の福祉・厚生に関すること。
- (5) 会員相互の連絡、情報の交換等に関すること。
- (6) 他教育諸団体との連絡・連携に関すること。
- (7) その他、本会の目的達成のために必要な事項に関すること。

【事業報告】

- 5月17日（札幌市）令和5年度第3回理事研修会・令和6年度総会研修会
- 6月3日（札幌市）第1回地区事務局長・地区研修担当者合同研修会
- 6月21日（札幌市）第1回理事研修会
- 11月29日（札幌市）第2回地区事務局

長・地区研修担当者合同研修会
○2月14日（札幌市）第2回理事研修会
【研究大会の概要】
令和6年度第57回北海道公立学校教頭会研究大会 渡島大会

○期日 令和6年9月20日（金）・21日（土）

○会場 全体会場 北斗市総合文化センター「かなでる」

分科会場 北斗市総合文化センター「かなでる」

北斗市民館・北斗市農業振興センター久根別住民センター・北斗市七重浜住プレミアホテルCABINPRE
SIDE N T 函館

○内容 開会式・研修部オリエンテーション・記念講演・分科会・閉会式

○記念講演 演題「コミュニティをデザインする書店 函館 蔦屋書店」
講師 菅 一樹氏（函館 蔦屋書店 館長）

○分科会 6 課題8分科会 各ブロックの教頭会による実践発表をもとに研究協議

【成果と課題】

- 成果
 - ・記念講演では、書店経営についてお話しいただいた。その経営理念は学校経営に通ずるものがあり、副校長・教頭の資質向上に大いに寄与する講演であった。
 - ・分科会では、全道各地区の提言を基に協議の柱に沿って2日間に渡り、熱量のある議論が展開された。各地区の課題を討議し、対面での意見交換が非常に有益であったとの声が多数寄せられた。
- 課題
 - ・会場の確保が難しく、分科会会場を広範囲に分散して開催する形となった。
 - また、実行委員の勤務校が遠隔地に分散しており、オンラインを活用した準備・運営の工夫が必要である。



東北ブロック長
仙台市立寺岡小学校 教頭
千葉 啓志

東北地区小中学校教頭会は、福島・宮城・山形・秋田・青森5県の教頭会と岩手県との副校長会、会員数2569名で組織されている。各県とも、教頭及び副校長の密接な協力を保ちつつ、教頭職及び副校長職としての研修を図り、研修成果を生かしながら、各県教育の一層の向上に資する活動を行っている。

【活動方針】

- 本会は、各県単位教頭会・副校長会が職能研修団体としての役割を発揮しながら、会員の資質を高めるための研修を推進し、教育の充実振興に寄与することを目的とし、その達成のため、以下の事業を行っている。
 - (1) 各県小中学校教頭会・副校長会の密接な連絡・連携に関すること
 - (2) 研究大会の開催、研究物の刊行に関すること
 - (3) 研究の振興に関する調査・研究に関すること
 - (4) その他、本会の目的達成に必要なこと
- 【事業報告】
- 5月30日、31日 第1回東北理事研修会（仙台市）
 - 7月31日、8月1日 全公教全国大会 高知大会への参加（ハイブリッド）
 - 9月12日 研究部長研修会及び事務担当者会（仙台市）
 - 10月9日 山形県小中学校教頭会研究大会（山形市）
 - 11月1日 秋田県小・中学校教頭会研究大会能代山本大会（能代市）
 - 11月14日 東北大会宮城大会（仙台市・オンライン）
 - 11月28日、29日 岩手県小中学校副校長会研究大会（盛岡市）
 - 1月23日、24日 第2回東北理事研修会（仙台市）
- ※福島、青森大会は、隔年開催のため、今年度なし

【研究大会の概要】

第44回東北地区小中学校教頭会研究大会 宮城大会

○記念講演 演題「学校教育の可能性を求めて」大震災とコロナ禍での学校創りから
講師 佐藤 淳一氏

○分科会 5 課題6分科会

○その他

【成果と課題】

- 成果
 - ・記念講演をいただいた佐藤淳一氏は、東日本大震災で被災した状況やコロナ禍で新設校を開校させた経験から、児童生徒への深い愛情と、教育への情熱を持ち続けながら、リーダーシップを取る重要性、教職員をまとめる力や決断力等、管理職として危機的な状況下でも覚悟を持ってしっかりと学校教育を推し進めていく大切さを示唆していただいた。
 - ・オンラインでの開催により、東北各県から800名を超える参加があり、どの分科会でも多くの参加者による協議を展開することができた。
 - ・オンライン開催のメリットとして、移動時間や宿泊等の手間が省け、業務との両立が容易にできたことにより参加率が向上したこと、大会期日を1日としたことにより短時間で多くの内容を学ぶことができ効率的であったこと等があげられる。
- 課題
 - ・午前中に全体会と記念講演、午後から分科会を設定したため、特に分科会にかける時間が短くなり参加者同士の情報交換をする時間を十分に確保できなかった。
 - ・オンライン開催のデメリットとして、直接顔を合わせながらの対話ではないことによるコミュニケーション不足が生じたこと、長時間になるほど参加者の集中力が低下してしまうこと、配信側のデータ総量を大きくしても、受信側のインターネット環境が十分でない場合、映像や音声が届き取りにくい状況となったケースもあり、環境面での整備（サポート）が必要であること等があげられる。
 - ・参集型の良さとしてオンライン型の良さを十分に生かしながら、今後の大会の在り方について検討していく必要がある。



関東甲信越ブロック長
南アルプス市立八田中学校 教頭
渡辺 浩二

関東甲信越地区公立学校教頭会は、東京都・千葉県、神奈川県、埼玉県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県の9都県で組織され、今年度の会員数は832名です。各都県の教頭会・副校長会がそれぞれ専門性や社会的地位の向上を目指して様々な活動に取り組んでいます。これまでに構築されてきた各都県の研究・研修の成果を継承し、それをさらに発展させるべく日々研鑽に努めています。

【活動方針】

- (1) 教育の発展に寄与するため「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を主題に研究の推進を図り、積極的な組織活動を展開する。
- (2) 副校長・教頭の職責に見合う処遇改善や教育諸条件の充実・発展を図るため、全国公立学校教頭会との連携を密にして、その実現に向け努力する。
- (3) 長野県の教頭を会員に組織化するための継続的な活動を展開する。

【事業報告】

- 6月20日(木) 21日(金) 関東甲信越地区公立学校教頭会大会第1回役員会、理事會
- 6月28日(金) 提言者研修会 オンライン
- 11月13日(水) 関東甲信越地区公立学校教頭会山梨大会第2回役員会、理事會
- ・山梨大会の運営について、日程・全体會・分科會等、参加者、大会宣言、その他
- ・令和7年度全国(関東甲信越地区) 研究大会茨城大会について
- ・その他 全校教頭会・理事会担当について
- ・令和7年度以降の開催・提言都県の確認

○11月14日(木)・15日(金) 第65回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会東京大会

○12月5日(木)・6日(金) 関東甲信越地区公立学校教頭会事務局連絡会

○2月5日(水)・6日(木) 関東甲信越地区公立学校教頭会山梨大会第3回役員会・理事会、関東甲信越地区公立学校教頭会東京大会監査会(場所・山梨大会事務局)

○2月27日(木) 関東甲信越地区公立学校教頭会事務局引継ぎ

○2月27日(木) 関東甲信越地区公立学校教頭会事務局引継ぎ

○期日 11月14日(木)・15日(金)

○会場 全体會・YCC山梨県民文化ホール 分科會・甲府市内5カ所

○内容 一日目 開会行事 記念講演 二日目 分科會 閉会行事(大会宣言・次期開催県挨拶)

○記念講演 演題「ネパールの活動から学んだこと」

○講師 野口 健氏 日本登山家

○分科會 5カ所12会場 提言1午前、午後各1提言 質疑応答 グループ協議、グループ発表、講評・指導助言

○成果

・分科會では、各都県の現状や実践を情報交換を通して地域性の違いを確認するとともに、各課題に即した提言・協議の柱に基づき、根本となる課題を共有し、互いの取組から学び合い充実した協議が行われた。昼食や休憩時にも情報交換を通して、多くの方とつながることができ、改めて参集で行う良さを実感したという意見をいただいた。

○課題

・266名の山梨県教頭会全員参加で準備・運営に取り組んできたが、5つの分科會会場、12の分科會運営において、役員等に係る負担もどうしても大きくなり、いろいろな要望に対応できないこともあった。運営の仕事のスリム化等、今後工夫が必要である。



東海・北陸ブロック長
津市立桃園小学校 教頭
川北 直樹

東海・北陸地区公立学校教頭会は、三重県、富山県、石川県、福井県、愛知県、岐阜県、静岡県、長野県の7県の教頭会で組織され、今年度の会員数は、4016名です。各県の単位教頭会は、政策提言能力を備えた職能研修団体として、これまで積み上げてきた研修の成果を継承し、社会的地位の向上や専門性を高めるための活動を推進しています。

【活動方針】

- 本会は、会員相互の連携を図り、頭会としての資質を高めるための研修を推進するとともに、教育の充実及び振興に寄与することを目的としています。その目的を達成するために以下の視点に基づき活動を進めています。
- (1) 教頭・副校長の使命に徹し、常に研鑽に励み、識見を高め、視野を広め、資質の向上に努める。
- (2) 会員相互の信頼関係を深め、連携し、たくましく明日を創造する児童生徒としての育成に努める。
- (3) 東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会において、各県の研究成果を集約する。
- (4) 副校長としての職務内容を明確にするとともに、教育環境の整備・充実に努める。
- (5) 教育関係諸機関・教育諸団体との連携を図り、教育上の諸問題の解決に努める。

【事業報告】

- 5月24日 東海北陸地区公立学校教頭会事務担当者会(三重県津市 参集)
- 6月21日 第1回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(三重県津市 参集)

○10月30日 第2回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(三重県津市 参集)

○1月24日 第3回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(富山県 参集)

○1月24日 第3回東海・北陸地区公立学校教頭会役員・理事会(富山県 参集)

○期日 令和6年10月30日(水)・31日(木)

○会場 三重県総合文化センター 他3会場

○内容 一日目 開会行事・記念講演 二日目 分科會

○記念講演 演題「世界一しあわせになれる水族館をめざして」

○楽しいだけじゃない、館長が語る水族館の裏話 講師 若井 嘉人氏

○分科會 5課題 6分科會

○成果

・各分科課では課題に即した提言であり、グループ協議も充実した内容となった。参集型での実施で、顔を合わせて協議を深めながら東海・北陸地区の教頭の情報交換が有意義なものとなった。

・記念講演では、ジュゴンの世界初の人工哺育の実践、ジュゴンだけでなく、様々な動物の実態をつかみ、その実態に応じた取組は、まさに子どもの実態から学ぶ取組と重なる内容で大変好評であった。

・大会当日までに、三重県内の教頭全員によるオンライン打ち合わせや、司會・提言者を中心としたオンライン会議は大変有効であった。

・全体出席者 1233人 分科會全体出席者 1250人と多くの東陸の教頭先生たちに参加いただけた。

○課題

・資料配布は、全体会の欠席者があるため、事前に配付することも検討している。



近畿ブロック長
城陽市立北城陽中学校 教頭
山崎 豊和

近畿公立学校教頭会は、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県で構成され、今年度会員数は4051名です。各府県の単位教頭会は、職能研修団体としての役割を認識し、これまで積み上げてきた研修の成果を継承し、さらに充実発展させるための活動を推進しています。

【活動方針】

- (1) 教頭の使命に徹し、学校教育の役割と今日的課題に正対し、常に研鑽を積み、識見を高め、視野を広め、資質の向上に努める。
- (2) 会員相互の信頼と絆を深め、本会の組織・機能を充実させ、活性化を図る。
- (3) 教育関係機関・教育関係団体との連携を図り、教育課題の解決に向けて鋭意努める。

【事業報告】

- 7月2日 第1回理事会（京都市）
- 10月24日 第2回理事会（京都市）
- 11月28日 近畿公立学校教頭会研究大会京都大会（京都市）
- 1月24日 第3回理事会（京都市）

【研究概要】

- 第62回 近畿公立学校教頭会研究大会京都大会
○期日 令和6年11月28日（木）
- 会場 国立京都国際会館
- 内容 開会行事・記念講演・研究協議会（分科会）
- 記念講演
演題 「学校づくりは人づくり」
講師 元全国公立学校教頭会副会

研究協議会（分科会）

- ① 教育課程に関する議題
- ② 生徒指導に関する議題
- ③ 組織・運営に関する議題
- ④ 人間尊重の教育に関する議題
- ⑤ 教頭の職務に関する議題

【成果と課題】

- 成果
・コロナ禍を経て参集型の研究大会となつて2年目を迎え、近畿一円より約1200名あまりの参加が見られ、府県の枠を越えた、活発かつ充実した交流を図ることができた。
- ・講演会では学校現場が等しく抱えている人材不足・人材育成の課題に対し、自らの志を抱きつつ、組織的に人材育成をすること、教員一人一人の思いを大切にされた学校経営をすることが重要であるなどの講演に、共感を覚える参加者が多かった。
- ・研究協議会では、他府県の教頭同士で意見交流できたことが良かったという声が多かった。また提言で示された実践発表が自らの刺激になったという意見もあった。

○課題

- ・会場によっては、1グループあたりの人数が多過ぎて十分研究協議が進まなかったところもあったので、研究協議の在り方を検討する必要がある。
- ・遠方からの参加者に配慮し、開始時間や開催曜日、また一部オンライン形式による開催などを検討する必要がある。
- ・1つの府県が大会運営を担当するサイクルが6年に一度ということ、教頭会役員が毎年入れ替わるということを合わせると、大会運営のノウハウを確実に引き継ぎ、時代に即した大会運営を目指していく必要がある。



四国ブロック長
高知市立三里小学校 教頭
大坪 顕彦

四国地区小中学校教頭会は、愛媛県・香川県・徳島県・高知県の4県の教頭会で組織され、現在の会員数は1216名です。特に今年度は、「第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会」を成功させるために、「四国は一つ」を合言葉に運営等について協力し合いながら活動してまいりました。

【活動方針】

本会は、四国地区小中学校教頭会相互の連絡提携と会員の資質向上を図り、四国地区の学校教育の振興と学校運営の合理化に努めることを目的とし、次の事業を行います。

- (1) 各県教頭会の情報交換と連絡調整
- (2) 研究大会の開催
- (3) 教育振興のための調査広報活動
- (4) 教頭職の勤務待遇改善
- (5) その他本会の目的達成のための事業

【事業報告】

- 6月22日 第1回理事会・代議員会・研究部長会・要請部長会
- 7月31日～8月1日 第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会
- 令和7年2月1日 第3回理事会・研究部長会・要請部長会、第1回事務担当者会1回事務担当者会（第2回は開催なし）

【研究大会の概要】

- 第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会、第42回四国地区小中学校教頭会研究大会高知大会
- 期日 令和6年7月31日（水）～8月1日（木）
- 会場（1日目）高知県民文化ホール
（2日目）ザクラウランパレ

新阪急高知等10会場

- 内容（1日目）記念講演・シンポジウム（2日目）分科会
- 記念講演 演題「想像と創造く地球のこどもビジョン」 講師 安藤桃子氏
- シンポジウム「夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」
- コーディネーター 露口健司氏 シンポジスト 藤原文雄氏、田村千賀氏、谷智子氏

【成果と課題】

- 分科会（1A、1B、2、3、4、5A、5B、6、特1、特2）
- 成果
・参集とオンラインのハイブリット大会として、全国から多くの参加者があり、各分科会でもグループで熱心な協議がなされた。その協議内容について、グループ発表ができ、共有することができた。提言数を2つにしたことで、時間に余裕を持った協議ができた。大会後のアンケートにも、全体を通して、95%以上の肯定的評価を得ることができた。大会集録をHPにアップすることで、印刷費用等を節約できた。大会を準備・運営するにあたり、組織図をもとに一人一人の協力体制を確立し、全国公立学校教頭会組織の意義や研究についての理解が深まった。

○課題

- ・大会の申込手続きやオンライン接続テスト等、大会前にやっていた内容について、メールやホームページで確認することを周知徹底させる手立てがさらに必要であった。各提言者へ提言原稿の記載の仕方の詳細について連絡していたが、運営に携わる分科会責任者にも同時に送付し欲しいという声があった。申込システムの確認や同規模校でのグループビギング等、大会直前まで細かな確認に時間を要してしまつたので、業者との綿密な打ち合わせを計画的に行う必要がある。



中国ブロック長
山口市立中央小学校 教頭
竹中 聖二

中国地区公立学校教頭会は、今年度については鳥取県、島根県、岡山県、山口県の4県で組織され、会員数は1487名となっております。各県の教頭会がそれぞれ専門性や社会的地位の向上を目指して様々な活動に取り組んでいます。なお、退会中の広島県は、昨年度に今後の再入会についての話し合いは拒絶されたところですが、本会としては研修に關してのコンタクトを絶やさずとりながら、一緒に進めていけるように働きかけているところです。

【活動方針】

- 本会は、中国地区公立学校教頭会相互の緊密な協調を保ち、職能の研究と向上を図り、中国地区教育の伸長に寄与することを目的としています。その目的を達成するために、次の事業をおこなっています。
- (1) 教育諸問題の調査
 - (2) 研究大会の開催
 - (3) 教頭職の地位向上のための連絡・提携
 - (4) その他本会の目的達成のために必要な事業
- 研究大会は、年1回開催し教頭の職能の研究と向上を図り、本会の目的達成のための研究や情報交換を行っています。
- 【事業報告】
- 5月30日 第1回運営委員会（オンライン開催）
 - 6月27・28日 第1回総会・役員会・専門部会・事務局部会
 - 11月21日 中公教研究大会前日準備会及び中公教研究大会前日分科会打合せ
 - 11月22日 第44回中国地区公立学校教頭会研究大会（山口大会）
 - 1月23日 第2回運営委員会（オンライン開催）

イン開催

- 2月13日 第2回総会及び中国教頭会・中国大会引継会（オンライン開催）
- 山口県↓岡山県（令和7年）↓鳥取県（令和8年）
- 3月21日 令和6年度中公教会計・研究大会会計 監査会

【研究大会の概要】

第44回中国地区公立学校教頭会研究大会（山口大会）兼 第46回山口県公立学校教頭会秋季研修退会（ハイブリッド形式）

- 参加者数 参集536名、オンライン198名 計734名
- 会場 《開会行事、講演会、分科会》KDDI維新ホール 《分科会》山口グランドホテル
- 内容 開会行事、記念講演、分科会
- 記念講演 演題『ファーストペンギンのココロ』人を束ねるチカラ、講師 株式会社GHLBL 代表取締役 坪内 知佳氏
- 分科会…6課題11提言

【成果と課題】

- 成果
 - ・講師の強い信念とリーダーシップや対話を大切にする姿勢に関する内容が共感を呼び、ポジティブな感想が多く寄せられ、参加者に深い印象を与えた。
 - ・ハイブリッド形式による開催方法を採用し、さらにブレイクアウトルームによる協議を行ったことで、参加方法の多様化に対応するとともに、オンライン参加者が参集者と比べて遜色なく他県の参加者と議論や交流を深めることができた。
- 課題
 - ・指導者の先生方と提言者の先生方の打合せの時間をしっかりとる。
 - ・参加申し込みから受付名簿作成の流れがうまくいかず、当日朝、支部ごとの受付で多少混乱があった。
 - ・会場が離れていることから起こる移動のわずらわしさがあった。



九州ブロック長
宮崎市立赤江小学校 教頭
米澤雄志郎

九州地区公立学校教頭会は、福岡県（小）、福岡県（中）、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の8県9教頭会で組織され、今年度の会員数は4182名です。これまでの各県で積み上げてきた研究・研修の成果を継承し、さらに充実発展させるための活動を続けています。

【活動方針】

- (1) 副校長・教頭職としての職責の重さを自覚し、研究活動を深め発展させるとともに、学校教育の資質向上と社会の変化に即応した学校運営の発展に努める。
- (2) 管理職としての副校長・教頭の職務内容を明確にするとともに、地位の確立とその向上に努める。
- (3) 九州各県の情報交換を密にするとともに、連携して組織の充実に努める。

【事業報告】

- 6月14日第1回各県代表者会・総会（宮崎県宮崎市参集）
 - 8月22日・23日第64回九州地区公立学校教頭会研究大会宮崎大会1日目分科会（宮崎県宮崎市参集）2日目全体会（宮崎県宮崎市参集）
 - 12月20日第2回各県代表者会・事務局担当者会（宮崎県宮崎市参集）
- 【研究大会の概要】
- 第64回九州地区公立学校教頭会研究大会宮崎大会
 - 期日 令和6年8月22日（木）・23日（金）
 - 会場 シーガイアコンベンションセンター7会場（分科会）
 - 会場 シーガイアコンベンションセンター1会場（全体会）

- 内容 1日目分科会研究協議（7分科会） 2日目開会行事・記念講演・開会行事
- 記念講演 演題「生きながら生まれ変わる」講師 米良美一氏

【成果と課題】

- 成果
 - ・今年度の研究大会も昨年に続き、参集型の大会となった。様々な経験年数の副校長、教頭がひざを突き合わせ協議を行ったことや司会ができるだけ多くの方に発言を求めたことで、時間が経つにつれて笑顔が増え、身振り手振りを交えた活発な研究協議となった。参集型のメリットを生かしながらインプットとアウトプットのバランスを考え、た協議が今後必要であることを感じた。
 - ・米良氏は、以前は人に歌声を聴かせるために歌っていたのだが、今は、自分の心を満たすこと、そしてその心からあふれた歌が聴衆に届くのではないかと考えるようになったとのことや、自分の過去を含め、すべてを受け入れ、前を向いて生きていくことが誰かを勇気づけることになるという思いでステージに立ち続けられているということなど、人が生きていくうえで大切なことを学ばせていただいた講演となった。今後の教師としての生き方についてもいろいろ示唆をいただけた。
- 課題
 - ・全体会や分科会における会場の広さや空調等についての課題があった。会場のレイアウトや空調等については、事前の打ち合わせや当日の対応ができるよう、会場との連携をさらに図っていく必要がある。
 - ・提言についても、参加者からは有意義だったとの意見が大半であるが、3つの提言では内容的にボリュームがありすぎることに指摘もあった。併せて、それぞれの発言者の時間等についても可能な限り厳密に進めていくことが大切である。